

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
 （分担研究報告書）
 「情報から始まるがん相談支援（情報支援）」研修の地域展開に向けた検討
 ～チーフファシリテーターの役割～

研究分担者 品田 雄市 東京医科大学八王子医療センター（医療福祉相談係長）

研究要旨

チーフファシリテーターを今後育成していくにあたり、どのようなことを知識や経験として身につける必要があるか、実際の研修運営に関わるときの準備、対応についてその際の意図や教育行動における構成要素を抽出した。チーフファシリテーターには、グループの構造的な理解と集団力動についての詳しい知識が必須であり、またその教育行動の意図を明確にした講義展開とグループワークとの相乗的効果を企図した能力養成の段階的把握が、教育効果を高めている可能性がある。

A. 研究目的

がん患者の個々のニーズに応じた情報支援の在り方について、がん専門相談員の継続研修としての意味合いを踏まえた資質の維持向上を目指した研修における企画運営、研修枠組み、教育方法、などに関する独自性と課題を明らかにする

B. 研究方法

情報支援研修を今後地域展開していくにあたり、特にチーフファシリテーターとしての役割・機能に焦点をあて、研修企画から実施、評価に至る過程を通じて、ファシリテーションの構成要素を明らかにし、そのファシリテーターとしての働きを、先行研究から実際の教育行動を理論的に検討し、受講者の理解促進や深達度を深めることに資する教育的意義の可能性を探索する。

（倫理面への配慮）

研修にかかわるすべての人と実施過程における力動に配慮し、苦痛や違和感などを表出しやすい環境づくりとともに、本研修に参加された協力者（受講者）が十分に参画できるよう努めた。

C. 研究結果

がん専門相談員に対する情報支援研修の企画、運営会議経過、実施、評価の過程とチーフファシリテーターの教育行動における役割・機能をグループワークやスーパービジョンにおける能力養成の段階などの先行研究と照らして分析検討した。

D. 考察

チーフファシリテーターの教育行動における役

割・機能を、その意図やグループワークの展開における具体的な進行のポイントについての観察とともに、理論的検討を行なった。チーフファシリテーターは、研修受講者全体の集団力動を活発にするためにグループワーク理論における4つの次元（コミュニケーションと相互交流パターン、凝集性、社会的な規範・役割・地位、集団文化）に基づく実践原則の特性を踏まえ、研修受講者の能力養成を5つの段階（観察、理解、分析と評価、応用、理論化）から習熟度を把握するよう努めていた、と考えられる。

E. 結論

がん専門相談員の継続研修におけるチーフファシリテーターには、グループの構造的な理解と集団力動についての詳しい知識が必須であり、またその教育行動の意図を明確にした講義展開とグループワークとの相乗的効果を狙った能力養成の段階的把握が、教育効果を高めている可能性がある。一方で、ファシリテーター育成方法には課題が残った。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

1. 論文発表
 2. 学会発表
- なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
 2. 実用新案登録
 3. その他
- なし